

編集後記

去る6月21, 22日に佐倉市民音楽ホールにおいて、大沢眞澄会長のもと、第109回日本医史学会が開催されました。日本医史学雑誌に関係する協議事項としては、科学研究費補助金の研究成果公開促進費の交付決定の報告、投稿規定の改定についての討議がありました。

本雑誌に対しての科研費の研究成果公開促進費はこの3年は申請が認められてきましたが、他学会の状況を聴くと採択は厳しくなる一方のようです。各学術雑誌には、魅力ある論文を継続的に掲載し、雑誌売り上げによって制作費をまかなえるようになることが求められています。そして海外からの投稿や文献引用があることも求められています。本雑誌は第54巻第1号から判型を横書きに変更し、欧文論文を投稿・掲載しやすい環境を整えました。

横書きへの判型変更に伴い、今回の投稿規定変更では従来の縦書きを想定した参考文献引用の形式が横書きに適したものになりました。第53巻第3号に編集委員会による投稿規定改訂案を掲載して意見を募り、編集委員会にて再検討し、書名・雑誌名のカギ括弧を廃止してピリオドによる区切りを用いることにしました。これはInternational Committee of Medical Journal Editorsによるバンクーバー方式として知られる論文の基本形式・規定Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journalsに準じています。国内外の多くの医学系雑誌で用いられる文献引用の形式を採用することで、論文著者・読者双方に益するところが多いと期待しています。原稿によっては縦書きを必要とする場合もあると想定されますが、その際は旧投稿規定に従ってください。

その他の変更点としては、原稿の区分に関して長さの基準を設けました。

新投稿規定を掲載いたしますので、今後の原稿作成の際には必ず目を通してください。学会ホームページ (<http://ficsvr.rc.kyushu-u.ac.jp/~michel/jsmh/manuscripts.html>) にも掲載しておりますのでコンピュータで原稿執筆する際に活用ください。
(澤井 直)